

すべてのケア労働者の大幅賃上げ実現のために

第75回定期大会を増勢で迎えよう

日本医労連 組織共闘局長 油石博敬

第11次組織強化拡大3カ年計画の取り組み

(1) はじめにやること

- ①すべての単組支部で拡大「目標」と「計画」を立てる
- ②拡大対象者(名簿をつくる)
- ③正規、非正規の組織率を把握する(組合員数と職員数を把握する)
- ④毎月報告ができるよう単組支部の実態把握&必要な支援

(2) 重点の取り組み(年開通して3つの重点に医労連共済をリンクさせて取り組む)

- ①新人加入100%の取り組み
 - ・「仲間を増やすにはBOOK」の活用(新歓グッズも活用しよう)
 - ・説明会は職場の先輩組合員複数人が「必ず休みを確保」してのぞむ
 - ・「みんなの助けあいアンケート(共済)」の活用(第2の対話のきっかけに)
 - ・試採用期間が終わる7月頃に再度アタックしよう(第2、第3の企画を)
- ②非正規職員の組織化(共済説明、均等待遇、無期転換)
 - ・不合理な待遇格差の洗い出し(当事者との対話&不合理な格差があれば要求化)
 - ・「組合に入って一緒に待遇を改善しよう」の声かけ(組合加入&要求提出&団交実施)
 - ・医労連共済の説明会(組合加入に)
- ③転退職者の個人加盟労組への転入
 - ・医労連共済への加入有無が転入を高める大きな力です
 - ・共済キャンペーンをフル活用して医労連共済推進の取り組みを組織内に広げる
 - ・まずは執行委員がセット共済全員加入からスタートする

基本活動を取り戻し
労働組合の姿を見せよう

私たち医労連の歴史は「仲間をふやし」ながら切れ目のない運動を展開することで要求を前進させてきました。すなわち、要求を前進させる土台の「仲間ふやし」は欠くことができない労働組合の基本活動です。

コロナ禍を経験し物価高騰が続くいま、賃金の高くない国、この日本でも全産業的には少なからず賃上げが実施されてきました。しかし、私たちケア労働者の賃金は平行線のままであり、それどころか賃下げ、一時金もカットされていく組織も少なくない実態です。

「仲間を増やして要求を実現させる」労働組合の基本活動を取り戻し、それを可視化する運動に取り組むことで、職場の要求前進ばかりではなく、同時に、医労連の存在を広く知ってもらうことで未組織労働者の目に留まる「仲間ふやし」にもつながっています。

「できること」からスタートしよう

今期は第11次組織強化拡大3カ年計画1年目の年で、54加盟組織890単組・支部15万9960人からスタートしました。早期に17万人を回復し、3年目で18万人医労連を達成しよう、大会の討議を経て、みんなで決めた目標です。単純計算で全ての単組支部で12人の純増で17万人達成、23人の純増で18万人達成の目標です。これまでの毎月拡大集計や組織実態調査などの分析から「毎月拡大の実践」に踏み出せるかが極めて重要なポイントです。

毎月報告が寄せられるのが5割に満たない現状からみると、困難を抱える組合が多数あると思われまます。本部、ブロック単位で困難を抱える組合の実態を把握して支援・対策も一緒になって考えていく必要があります。

毎月拡大を位置付けて実践していくためにも、困難を抱える組合に寄り添っていくことと同時に、まずはじめにやることとして、すべての単組支部で拡大「目標」と「計画」を立てて、拡大対象者(名簿作成)を明確にすることから始めましょう。

年間通していつでも
チャレンジしよう

大会方針や3カ年計画のなかでも重点として取り組む柱があります。その1つの「新人加入100%」の取り組みのなかで寄せられている声として、第2の対話のきっかけ

これから一緒に働くあなたに 伝えたいことがある

労働組合に入って仲間をつくろう



「春の組織拡大月間」の
関連資料・グッズなどは
←こちらから活用ください。

となる「みんなの助けあいアンケート」の取り組みが好評であること、「仲間を増やすにはBOOK」の通りに実践して短時間の説明(長くても30分以内に終わる)で加入に至るケースや、職場の先輩がたさん参加することで加入のハードルが一気に下がる事例も寄せられています。何より青年組合員の力が必須であることは間違いないです。

仲間を増やして賃上げと人員増へ

あと1カ月ほどで日本医労連第75回定期大会を迎えます。大会を増勢で迎え、みんなで喜び合えるよう、いまだできること、そして、やれることとは何でもやり抜いて「仲間ふやし」の歩みを止めずに、みんなで支え合いながら取り組みましょう。私たちが求める、すべてのケア労働者の大幅賃上げと人員増を実現するために、一緒に声を上げる仲間を一人でも多く迎え入れましょう。

脈路

看護の倫理原則は「自律尊重・無危害・正義・公正と正義・誠実と忠誠」、介護の倫理原則は「自律尊重・無危害・正義・公正と正義・誠実と忠誠」。

善行・無危害・正義。双方とも生命倫理の基本原則に基づいている▼ここに出てくる「正義(Justice)」とは、「人に対して公正な処遇を与えること」を求めている。公平とは、同じ機会へのアクセシビリティを確保すること。つまり公平性が担保されて平等性を得ることが出来る。公平性が担保されるには、その判断や言動に偏りがないことを保障する「公正性」が必要。生命倫理原則にある「正義」とは「公正な処遇」を意味している▼わたしたちが働く、医療・介護・福祉分野における処遇と労働条件は、はたして他産業労働者と肩を並べる「公正性」が担保されているのか。賃上げ率の全産業平均からの格差は拡がり、医療・介護・福祉の他産業へ流れる離職者は、年々増加の一途にある▼現実にある格差を目を伏せることなく、社会的役割に相応しい処遇と労働条件を獲得しないと、守るべき生命倫理原則は維持が困難な状況になる危機を迎えていることを、現場のわたしたち一人ひとりがあらためて強く認識し、声をあげ訴えていく行動が求められている▼真に国民に寄り添う社会インフラとしての医療・介護・福祉はどうあるべきか、国政を担う参議院議員選挙は目前である。

春闘・夏季一時金 回答状況

回答集約状況

25春闘での賃上げ要求に対する6月6日時点の回答集約状況は、253組合が回答を引き出し、ベースアップ回答は58組合、定期昇給含むパートの賃上げ回答は71組合です。ベースアップ・定昇・手当引き上げ分含む全体の引き上げ平均額は5725円2・05%となっています。一方で国民春闘共闘第7回賃上げ集計では、全体8739円3・26%と他産業と比べると3014円低い不十分な引き上げ額となっています。

夏季一時金の回答状況は、6月12日時点で164組合が回答引き出し、平均1・51

9カ月一律2万4059円、平均37万9837円となっています。国民春闘共闘第1回集計では、2・0カ月、平均65万680円となっています。国民春闘共闘の一時金平均支給額と比較すると、平均27万843円マイナスです。また24秋闘に続き、マイナス0・4カ月以上の大幅な削減回答も出されており、厳しいたたかいが続いています。

春闘賃上げ回答状況

		額	率
日本医労連	(全体)	5,725円	2.05%
国民春闘共闘	(単純平均)	8,739円	3.26%

夏季一時金回答状況

	月数	一律	平均
日本医労連	1.52カ月	24,059円	379,837円
国民春闘共闘	2.00カ月		650,680円

26年度概算要求

基本報酬の引き上げを

日本医労連は、6月4日に厚労省に対し、2026年度概算要求に関する要請を行いました。

現行の保険 証存続を

地域医療提

供体制・社会

保障制度の充

実では、マイ

ナ保険証一本

化の廃止や医

療提供体制の

整備、国保料

の引き下げな

どを求めまし

た。マイナ保

險証に関しては、不安の声が多数あがっていることを認識しつつも、周知広報を進める

との回答に留まりました。回答をうけて、懸念点や介護現場などで起きている実態を伝えながら、現行保険証を存続させるよう求めました。

大幅増員・夜勤規制

大幅増員の分野では夜勤規制の法制化、余力ある人員配置のための予算確保を求めました。

厚労省は、夜勤交替制労働の健康リスクを認めながらも、看護師の勤務形態に特別なルールを設けると他職種に

影響があるとして慎重な姿勢を示し、介護分野でも人員配置基準の引上げは安定的なサービス提供に影響を与えるなど、後ろ向きな姿勢に終始。

バス・タクシー等には労働時間の規制が入っていることや、そもそも配置基準以上の配置をしないとまともなケアができない水準になっていることを訴え、「国が配置基準を引上げ、本気で介護をどうするか考えてほしい」と追及しました。

ケア労働者の大幅賃上げを

ケア労働者の大幅賃上げに

調査結果概要

日本医労連は、2025年看護職員の入退職に関する実態調査を4月1日～5月7日に行い、6全国組合36都道府県医労連より145施設分の回答を集約しました。

◆退職者が採用者数を上回った施設が約6割

24年度年間採用者数と24年度年間退職者数を比較すると79施設58.1%が採用者数を上回る退職者数でした。また過去3年間分の回答で見ると退職者が採用者数を上回った施設が、23年度61施設49.6%に対し、24年度72施設58.5%と1割増加していました。

◆4月新規採用は約4割の施設が募集定員を満たせず

25年度4月新規採用予定者数と25年度4月新規入職者数を比較すると、46施設40.7%が採用予定者数を満たせず、約4割の施設が必要な看護職員数を確保できていません。

◆年末一時金の削減が人材流出の要因に

24年末一時金が大幅に削減された施設のみをみると、看護職員減(退職者数が採用者数を上回った)となった施設が18施設64.3%と、全体より6%多く、大幅な削減が相次いだ24年年末一時金の削減が退職増加の要因となっていることが推察される結果になりました。

◆医療提供体制への影響 患者サービスの低下が4割

看護職員不足による医療提供体制への影響は、約4割の施設が「患者サービスの低下」と回答。人手不足によりベッドサイドに行く時間が限られ、入浴や清拭の回数を減らさざるを得ない等のケアの質低下を訴える声が多く寄せられました。

◆人手不足解消のための対策は、賃金の引き上げ

看護職員不足への対策は、賃金の引き上げという声が多く寄せられた。深刻な人手不足の状況を世論に訴え、報酬や配置基準の引き上げ、大幅賃上げを求めて声をあげていきましょう。



日本医労連は、6月4日に厚労記者会で「2025年看護職員の入退職に関する実態調査」の記者発表を行いました。記者発表には全体で厚労省と報道機関18社24人が参加。会見場を埋め尽くす多くの記者が取材に訪れました。また記者発表終了後にも多くの記者から個別に話を聞きたいと質問が殺到し、医療現場の看護職員不足への関心の高さがうかがえました。記者発表では、佐々木悦子中央執行委員長のあいさつのあと、松田加寿美書記次長より「2025年看護職員の入退職に関する実態

調査」の結果報告、東京医労連の看護師より看護職員の退職が増え、看護の質や勤務体制、休暇の取得等さまざまな影響が出ていることを訴えました。

また、夏季一時金の回答集中日翌日だったことから、春闘・夏季一時金の回答状況についても米沢哲書記長より報告を行い、深刻な看護職員不足を改善するためにも、ケア労働者の処遇改善や報酬の引き上げ等が待ったなしの状況であることを訴えました。

看護職員の入退職調査記者発表

人手不足解消の見通したたず

要請書を手交する社保対策委員の井上中執(左)



社会保障・地域医療対策委員会は5月21日に厚労省要請を行い、同委員会責任者の渡辺勇仁中央副執行委員長ほか対策委員ら13人が参加し、地域医療・介護・福祉提供体制について意見を述べました。

国家資格に見合った賃金を
医療・介護現場の現状として、依然として他産業との賃金格差が縮まっていないことを訴えました。参加者らは、国家資格を持つ職種にふさわしい賃金水準になるよう、国家資格を持つ人をきちんと評価するよう求めました。厚労省は賃金格差については認識している述べつつも、補正予算で対応しているという回答に終始。これについて参加

厚労省へ政策改善要請

者は、補正予算における補助要件が直接賃金に充てられるようになつていないと指摘。「現場では賃金にあてられず全額物品購入などに充てられている」と実態を告発し、要件に賃金充当することを明記するよう求めました。

政策に現場の声を反映させよ
医療機関機能や病床機能に関する要請では、高齢者救急について言及し、新たな機能分化が高齢者医療の差別にならないよう求めました。

また、地域医療構想における知事の権限について、宮城4病院再編計画でおこなった地域の混乱を挙げ、知事の権限

べ、報酬の大幅引き上げを訴えました。ヘルパーの立場からは、「ヘルパーの平均賃金は全産業平均より7万円低く、募集しても来ない。私たちがヘルパーにも生活がある、家族がいる。使命感だけで働くには限度がある」と訴えがありました。集会后は、署名提出と議員要請行動を行いました。

介護労働実態調査結果
同日、厚労省記者クラブにて、全労連介護・ヘルパーネットが「介護労働実態調査」の結果を発表し、会見場には14人の記者が集まりました。会見では、「労働者のやりがい搾取により辛うじて業務が回っている」と、過酷な現場実態が浮き彫りになりました。調査では、正社員として雇用されている回答者の平均

共闘拡げ 制度改善めざす 精神部会

一致点で共闘したい
精神部会では5月15日に一般社団法人日本精神科看護協会以下、日精看と懇談を実施。懇談の冒頭あいさつで精神部会の



日精看と懇談の様子

佐々木和敏部会長は、地域医療構想に精神医療も包括されたことや、精神科病床が減っていく現状をふまえながら、より良い精神医療の実現と労働者を守る運動を両輪ですめたいと述べました。それを受けて日精看は協会の運動として、精神科看護が社会に期待されることを図りながら、あるべき姿を追求し活動していると話しました。また、労働環境や職務改善、制度改正などに声を上げていくのが職能団体であり、その点は労働組合も同様だという認識を示しながら、改めて職能団体



賃上げ状況を訴える様子

・労働組合の存在意義を発信していく必要性も訴え、一致できることは共に運動を進めたいと述べました。

制度の問題点を追及
精神科の日常点が低いことについて、手技が目に見えない精神科医療・看護を正しく評価してほしいと訴えました。賃金等については、政府が出した補正予算も、実際には賃金に回らず設備投資に使われている実態を報告しました。精神科医療の地域移行については、もっと国の主導で道筋を示すように要請しました。

介護署名

処遇改善求め 34万筆国会へ



紹介議員らに署名を提出する様子

全産業平均差11万 事業所倒産の影響告発

介護署名提出集会
5月27日、衆議院第一議員会館にて介護署名提出集会が開かれ、現地に140人、オンラインでは100人以上が参加しました。介護署名の紹介議員は、6つの政党党派から107名になりました。署名は34万1301筆を集約し、日本医労連全体では1万7503筆となりました。集会には複数の国会議員が参加し、「介護労働者の賃上げは当たり前、訪問介護をなくすな」とエールが送られました。

連帯のあいさつでは、障害者の立場から「付き添ってくれるヘルパーが見つかりにくくなり、外出しにくくなった。1カ月前に依頼しても見つかりにくい。ヘルパーの人数も減っている。介護職の低賃金が原因だと思う」と述

べ、報酬の大幅引き上げを訴えました。ヘルパーの立場からは、「ヘルパーの平均賃金は全産業平均より7万円低く、募集しても来ない。私たちがヘルパーにも生活がある、家族がいる。使命感だけで働くには限度がある」と訴えがありました。集会后は、署名提出と議員要請行動を行いました。

介護労働実態調査結果
同日、厚労省記者クラブにて、全労連介護・ヘルパーネットが「介護労働実態調査」の結果を発表し、会見場には14人の記者が集まりました。会見では、「労働者のやりがい搾取により辛うじて業務が回っている」と、過酷な現場実態が浮き彫りになりました。調査では、正社員として雇用されている回答者の平均



介護タオルでアピール

岡山では5月10日に看護・介護ウェーブを民医連と共催し、8単組から40人の新入職員を含む92人が参加しました。

集会では、岡山県学習協会の長久啓太さんから、ケア労働のあり方について学習講演を受け、感想交流で理解を深めました。その後アピールグッズを掲げながら、倉敷美観地区をパレードしました。



北海道の行動参加者ら

北海道では4月23日に札幌駅前地下街で介護職の魅力を発信するとともに、署名宣伝行動を実施しました。10時から16時で行われた行動には、医労連加盟単組のほか民医連や社保協から36人の仲間が結集し、103筆の署名を集約しました。行動中は動画を流したり、道内の訪問介護施設数の現状図を掲示するなどして、アピールしました。

介護を良くするアクション各地で

賃金月額額は24万9585円となり、全産業平均と比べると約11万円もの差があることが明らかになりました(2024年賃金構造基本統計調査に

よる)。この結果をうけて、次期改定を待たず、早急な介護報酬改定が必要であることが強調されました。

会見には愛知県医労連名南

会労組から、ケアマネージャーの榎原康洋さんが参加し、現場の労働実態を告発。また訪問介護事業所の倒産が相次いだことで、受けられるはず

のサービスを利用者が受けられなくなったり、家族の負担が増してしまうことを強く訴えました。

署名103筆



嘉数高台にて



日本医労連は、5月23日～25日の日程で、第33回平和ツアーin沖縄を開催。1全国組合13県医労連18単組・支部43人が参加しました。

ツアー3日間のガイドは、沖縄県医労連の山田義勝執行委員長にお願いしました。

住民の半数が犠牲に

初日は、那覇軍港、キャンプキンザーを車窓から見学。その後、嘉数高台、道の駅「かでな」を訪ねました。

紹介されました。また、高台から一望できる普天間基地には、数十機ものオスプレイが駐機していました。山田さんは「基地の近くには住宅もあり、学校も保育園もある。世界で一番危険な基地。1996年に返還が決まったのに、いまだに一歩も動いていない」と実態を告発しました。

れた。見えませんでした。大浦灣を埋め立てるのに、杭を7万本うつ計画ですが、海底はひどい軟弱地盤で、いくら杭をうつても、土砂を流し込んで、完成する見込みはないとのことでした。「底なし沼に税金を投げ込んでいるようだ」との感想がもれました。

南風原陸軍病院も、糸数

道の駅「かでな」では、道路を一本隔てた嘉手納基地を見ながら、説明を受けました。基地内では、消費税や酒税が一切からならないこと、米軍住宅の水光熱費は全て日本の負担なので、米兵は「日本にずっといたい」と話していると、紹介されました。

壕も、ひめゆり学徒隊がともに派遣されていた壕です。壕内の湿度は90%で、当時の劣悪な環境が想像されました。当時、葉はなく、手術といっても負傷した腕・足が腐らないように麻酔もない中、切断するだけ。手当するものも重傷者からでなく、軽

定期大会時の対応について

日本医労連は7月22日(火)～24日(木)に定期大会を開催します。それに伴い、医労連共済の業務も次の通りとなります。

給付請求締切

7月31日給付分については、7月11日(金)までの郵便到着分(慶弔・メール含む)までとします。

一般共済の電話対応

定期大会開催中の7月22日(火)～24日(木)については留守番電話とさせていただきます。

火災事故の受付

通常の時間外・休日と同様、03(33366)7908(住宅災害損害査定センター)

で対応します。火災事故受付のみです。

自動車事故の受付

各地域の自動車共済協同組合にご連絡をお願いします。

◎北海道 0120-252-924

◎東北 0120-246-250

◎関東 0120-898-819

◎中部 0120-365-625

◎西日本 0120-242-365

*故障等で走行不能の場合、自動車共済ロードサービス専用デスク(0120-800-6324)へ

医
労
連
共
済
だ
よ
り

うと、先に壕に避難していた住民を砲弾の嵐の中追いつめたこと、②「接収」と称して、住民から根こそぎ食料を奪ったこと、③住民と一緒の壕の中では、危険な入口付近に住民を配置して、「人間の盾」としていったことなどが紹介されました。加えて、糸数壕では、朝鮮の従軍慰安婦の慰安所

があつたことも紹介されま
した。

A black and white photograph of two women standing in a museum exhibit. The woman on the left is wearing a light-colored kimono with a patterned skirt and a dark cap, looking towards the camera. The woman on the right is wearing a light-colored kimono and dark pants, looking towards the camera. They are standing in front of a display case containing various items, including a small wooden box and a bicycle wheel.

医療の眼

未来を任せられない政治

先日、自公維が各地の医療機関で余剰となつてゐる病床の削減を進め、約11万床の削減で医療費1兆円を圧縮することを大筋合意し骨太方針に明記する方向で進める報道があつた。思い起こせば10年前の戦争法の時もそうだが、悲惨な戦争を永遠に起こしてはならないと誓つた憲法9条を、舌の根も乾かぬうちに、時の首相の身勝手な判断で

能登の震災を見てもそうだし、この国の政治家は反省もしない、教訓にすることもしない、国民目線に立つことはなく弱者切り捨ての政治が続けられている。

コロナが終息したかのようには政治が進められていくが現場での奮闘は今もなお続いており、コロナクチンをはじめとした薬害の後遺症に苦しむ人々の声にもフタをしたままの姿勢である。

慢性的な人手不足の状況化でコロナが襲いかかると、命の選択をせざるを得ない医療崩壊を経験した。再びこのような悲劇を起こしてはならないのと、新たな感染症に備えるための病床数や人員増が誰もが必要と感じたは

労働組合の魅力と力を存分に発揮させて追い風を起こそう

ずなのに、11万床削減と骨太どころか骨抜き方針に目を疑うことが現実に起きている。殆どの病院が赤字であり、ケア労働者の賃金だけが置き去りどころか賃下げ、一時金カットの状況が続くなか、現場を去っていかざるを得ない仲間が一斉に生まれている。コロナ禍の経験や今回のコメ騒動を見て、今の政治の在り方では、再び医療崩壊して、平時でも救急のたらい回し、手術も何カ月待ちなど、気づいたときには手遅れの状況になることは明白である。

性別、身分、支持政党によつて差別しない要求のもとに団結する労働組合である。だからこそ権力や政党にも縛られず国民と労働者の要求に団結して行動を起こせる医療・介護労働者の産別組織である。いま私たちが求めている「ケア労働者の大幅賃上げと人員増」をはじめとした医療や介護分野における要求を束ねて、声をあげ続け、国民世論へ押し上げていくことで、私たちが求める安心・安全を最優先に考える社会を実現できる道につながると思う。

国民の血税の使い方ひとつとっても、国防といふ名の心算式力による仲間を増やして変えていこう

防衛費のみを突出する考
 えを改め、国民の食を担
 う農業を守るために、国
 民の未来をつなぐ教育を
 守るために、そして、国
 民の命と健康を守る医療
 ・介護を守るために使っ
 てこそ国防と言えると思
 う。まだ記憶に新しい東
 日本大震災やコロナ禍、

そのためにも、私たち
 の運動の土台となる「仲
 間ふやし」は労働組合と
 して基本となる重要な取
 り組みである。対話と学
 び合いを積み重ね、労働
 組合の姿が見える日常活
 動を取り戻していくこと
 を仲間の皆さんと一緒に
 取り組みたい。

要求のもとに団結する
労働組合

私たち医労連は、いか合の力を発揮させ、大いなる場合においても人に取り組んでいこう。

種、宗教、思想、信条

油石博敏

油石博敬